

第2回検証会議意見整理票

※「番号」は、第1回検証会議 資料1「令和2年度いじめ防止等対策事業」に記載の番号です。

資料 1

検証・検討の対象となるいじめ防止等対策事業			取り上げた理由	事業に対する評価及び意見
番号	事業名	事業の概要		
2	いじめ防止「きずな」サミットの開催	<p>平成20年度から、「いじめゼロキャンペーン」の一環として、各区の中の一つの地域を指定して実施してきた。平成26年度からは全市一斉に開催することになり、市立小中学校・中等教育学校の代表児童生徒が一堂に会し、いじめに対する課題を共有し、「いじめをなくしたい」という強い気持ちの醸成を図っている。サミットでは、いじめのない学校にするために自分たちができることについて、テーマに沿って協議を行っている。</p> <p>【事業に関する説明等】 令和2年度は、「8万人の児童生徒によるいじめ防止「きずな」サミット」として、全市立小中学校の児童生徒が同じテーマで話し合い活動に取り組み、行動目標を決定し、自分たちが考えたメッセージをのぼり旗に書き入れた。話し合い活動の指導案は教育委員会が作成した。</p>	<p>・子供同士の意識を高めるためには必要かもしれないが、行事をいろいろやっていますというようなものは見直してもいいのではないか。</p> <p>・取組みの様子について市民の方に十分伝わっていないのではないか。</p>	<p>【事業の実施内容について】 ・事業開始当初に担ってきた役割もあるが、事業をより効果的なものとすべきである。</p> <p>・事業がもたらす効果もあるが、児童生徒がどこまで絡むべきか検討すべきである。</p> <p>・代表児童生徒が参加するイベントより、各学校で児童生徒が同じテーマで話し合い活動に取り組むことの方が、効果があるのではないか。</p> <p>・学校代表としてイベントに参加した児童生徒が成長する面はあると思われるが、それは「いじめ防止「きずな」サミットサミット」に限ったことではないので、いじめ防止等対策事業として適しているか判断すべきである。</p> <p>【事業に関する広報周知について】 ・教職員が頑張っている様子を伝える仕組みがないため、市民の方に分かりにくいものとなっている。</p>
3	いじめストップリーダー研修の実施	<p>各学校において、生徒の主体的ないじめ防止に向けた活動を推進するために、市立中学校・中等教育学校の代表生徒(中学1・2年生から各1名、男女のバランスよく選出)が、市内施設で研修を行っている。研修では、いじめ防止に向けた活動や意見交換を行い、リーダーとしての資質を高めている。</p> <p>【事業に関する説明等】 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施しなかった。</p>	<p>・子供同士の意識を高めるためには必要かもしれないが、行事をいろいろやっていますというようなものは見直してもいいのではないか。</p> <p>・取組の様子について市民の方に十分伝わっていないのではないか。</p>	<p>【事業の実施内容について】 ・事業開始当初に担ってきた役割もあるが、事業をより効果的なものとすべきである。</p> <p>・事業がもたらす効果もあるが、児童生徒がどこまで絡むべきか検討すべきである。</p> <p>・代表児童生徒が参加するイベントより、各学校で児童生徒が同じテーマで話し合い活動に取り組むことの方が、効果があるのではないか。</p> <p>・いじめについてリーダーの生徒に相談したが、いじめが改善しなかった場合、リーダーの生徒が責められるリスクがある。</p> <p>【事業に関する広報周知について】 ・教職員が頑張っている様子を伝える仕組みがないため、市民の方に分かりにくいものとなっている。</p>
8	いじめ対応等相談に係る教職員相談支援室の設置	<p>市教育センター内に窓口を設置(相談員:教員OB2名)。いじめ事案等への対応、学級経営、保護者への対応、職場の人間関係等、教職員の職務上の相談に対応する。 電話、メール、来所による面談及び各研修等での支援等を実施。来所による相談時間は、月曜日～金曜日(閉庁日を除く)の正午～午後6時。</p> <p>【事業に関する説明等】 令和2年度は、新型コロナウイルス拡大防止に伴う研修会の削減等により、教育センターに来所した際の相談が減少したと考えられる。</p>	<p>・教職員の相談ニーズに合った相談体制となっているか。</p>	<p>【事業の実施内容について】 ・コロナの関係で教育センターでの研修機会が減ったため相談件数が減少したことについては検討の必要がある。</p> <p>・悩みを抱えた教職員が研修を受講して窓口に行かないと相談できないことになるので、システムを見直す必要がある。</p> <p>・相談窓口の開設時間の関係で、勤務終了後に相談しづらいのではないか。</p>
9	いじめ・不登校対策推進協力校の指定	<p>いじめ・不登校への「未然防止」「早期対応」に向けて、各協力校が児童生徒の実態に応じて具体的な実践を重ねてきた。いじめ・不登校対策の実践例を市内全校に発信し、共有を図る。 ＜取組の内容＞ ・年間を通じた各校毎の研修 ・教育委員会主催の合同研修会への参加 ・指導主事訪問 ・実践報告会での発表 ・実践報告書の作成</p> <p>【事業に関する説明等】 令和2年度は、5校を指定している。年度末に実践発表会を実施し、各協力校の実践を全市立学校のいじめ対策担当教諭と不登校支援コーディネーターに伝えている。</p>	<p>・協力校に指定された学校とそれ以外の学校とで取組みに温度差が出るのではないか。</p> <p>・報告書やモデル案の活用について確認すべきではないか。</p>	<p>【事業の実施内容について】 ・協力校に指定された学校とそうでない学校に差が出るのは、市全体のいじめ防止対策としては課題がある。</p> <p>【事業の成果の活用について】 ・報告書を作成して終わりではなく、他の学校の参考となっていることを付け加えてもらいたい。</p>

第2回検証会議意見整理票 ※「番号」は、第1回検証会議 資料1「令和2年度いじめ防止等対策事業」に記載の番号です。

資料 1

検証・検討の対象となるいじめ防止等対策事業			取り上げた理由	事業に対する評価及び意見
番号	事業名	事業の概要		
13	命を大切にす教育の推進	<p>自死予防教育推進協力校での実践を踏まえて作成した「仙台版 命と絆プログラム」を市立学校に配布するとともに、活用の推進を図る。また、各学校の担当者を対象に、命を大切にす教育の必要性や推進に当たったの留意事項等の合意形成のための研修会を行う。</p> <p>【事業に関する説明等】 「仙台版 命と絆プログラム」では、道徳の中で命を扱う場面がある単元と気を付けるべきことや「たくましく生きる力育成プログラム」の中の自己肯定感を高めるプログラムなどの活用についてまとめている。道徳や「たくましく生きる力育成プログラム」を活用した各学校での実践例を集めて、バージョンアップしていきたい。</p>	<p>・モデル校に選定された学校とそれ以外の学校とで取組みに温度差が出るのではないか。</p> <p>・報告書やモデル案の活用について確認すべきではないか。</p>	<p>【事業の実施内容について】 ・モデル校に指定された学校とそうでない学校に差が出るのは、市全体のいじめ防止対策としては課題がある。</p> <p>・「命を大切にす教育の推進」については、児童生徒に死を伝えたり、ジェンダーの扱いもあり、センシティブな面もある。</p> <p>【事業の成果の活用について】 ・報告書を作成して終わりではなく、他の学校の参考となっていることを付け加えてもらいたい。</p>